

いつなにをする？（実施スケジュール）

5年間でどの取組をいつ実施するかのロードマップです。

★マーク：重点的に取り組む事業

取組			2027	2028	2029	2030	2031
基本方針 1 毎日の暮らしに、もっと便利で、やさしい交通をつくろう							
1-1	基幹となる鉄道・バスをかくく効率的に再構築する	★ 吉田大東線の再編	利便増進計画策定・準備・実証運行開始・適宜改善				
		★ 乗継環境・待合環境の整備	適宜実施				
1-2	だんだんタクシーをもっと使いやすく進化させる	★ だんだんタクシー(だんだんバス)のサービス内容改善	● 計画 ●	Bゾーンから順次開始			
1-3	円滑な通学手段確保に向けた交通体系の見直し	通学対応の運行ルール見直し検討	● 調整 ●	施策 1-2 に合わせて適宜調整・実施			
基本方針 2 プロの技と地域の力、力を合わせて支え合いの輪を広げよう							
2-1	交通を「自分ごと」として考え、行動する文化を育む	★ 「交通えすこ会議」の設置	毎年度、継続して開催(年 1 回以上)				
		地域と連携した外出機会の創出	● 調整 ●	施策 1-2 に合わせて適宜調整・実施			
2-2	だんだんタクシーをもっと使いやすく進化させる	地域の担い手と交通事業者が連携する新しいモデルを創る	● 調整 ●	施策 1-2 に合わせて適宜調整・実施			
基本方針 3 交通の担い手を応援し、交通環境を未来につなげよう							
3-1	運転手の未来を支え、働きがいを高める	★ 担い手確保への直接支援	適宜実施				
3-2	交通事業の経営基盤を安定させる新たな挑戦	事業者・産業の枠を超えた総働(共同化・協業化)の推進	適宜実施				
3-3	デジタルの力で運行と業務の効率を高める	利用者向けの DX 推進	● 検討 ●	施策 1-2 に合わせて適宜調整・実施			
		事業者・行政向けの DX 推進	随時検討・実施				
3-4	「乗りたい」気持ちをつくる、後押しする	わかりやすい情報発信への改善	毎年度、継続して改善・実施				
		外出を促進する運賃制度や補助事業の実施	毎年度、継続して改善・実施				
		一歩を踏み出す、後押しする動機付けの実施	毎年度、継続して改善・実施				
3-5	環境にやさしい交通をつくる	車両の小型化・脱炭素化による交通 GX	適宜実施				

計画の推進と達成状況の評価

計画の進捗状況を確認するための評価指標を以下のとおり設定します。

指標	指標の定義	現状値	目標値	評価の時期・方法
公共交通の総利用者数	市内を運行するバス、だんだんタクシー（だんだんバス）の年間の総利用者数	200,493 人 （令和 7 年バス事業年度）	208,000 人 （令和 12 年バス事業年度）	各交通事業者からの報告を受けて、毎年評価する
公共交通の公的資金投入額	市内を運行するバス、だんだんタクシー（だんだんバス）の維持に係る年間の市の負担額	318,777 千円 （令和 7 年バス事業年度）	318,777 千円 （令和 12 年バス事業年度）	各交通事業者からの報告を受けて、毎年評価する
公共交通の収支率	市内を運行するバス、だんだんタクシー（だんだんバス）の維持に係る年間の収入に対して必要となった支出の割合	5.7% （令和 7 年バス事業年度）	5.7% （令和 12 年バス事業年度）	各交通事業者からの報告を受けて、毎年評価する
公共交通の満足度	「市内の公共交通機関（バス・JR・だんだんタクシー）に満足していますか？」の問に対して、満足・多少満足と回答した人の割合	48.8% （令和 6 年度）	60.0% （令和 11 年度）	毎年実施する市民生活の現状に関するアンケート調査において把握し評価する
運転手確保にむけた支援	雲南市運転免許取得支援事業補助金（二種免許の取得費用の補助制度）の交付件数	2 件 （令和 7 年度）	7 件 （令和 12 年度）	交付状況について、毎年評価する

■ 計画は、事業主体が中心となって各事業を展開し、各年度ごとに「雲南市地域公共交通協議会」で進捗状況の確認を行うこととします。

■ 事業の進捗にあわせ、雲南市と雲南市地域公共交通協議会が中心となって、関係機関と連携し事業の推進に努めます。

重点的に取り組む事業

1-1. 基幹となる鉄道・バスをかしこく効率的に再構築する

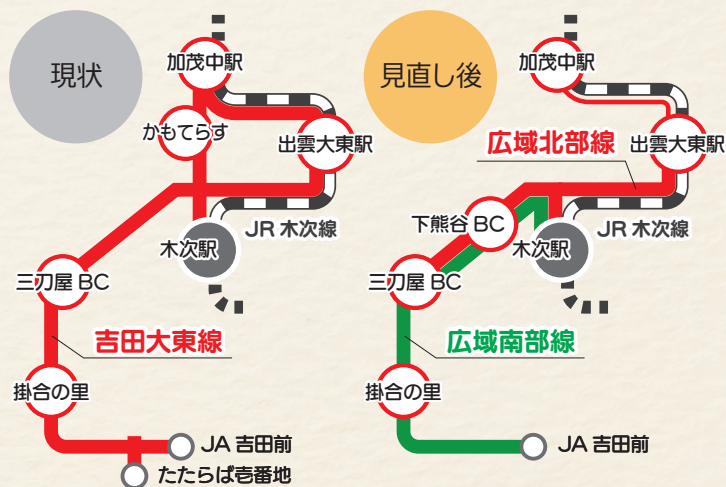
●吉田大東線の再編 利便増進事業を想定

- 以下のように、吉田大東線の再編を行い、利用者にもわかりやすい運行を実現するとともに、降雪や事故等による遅延対策・全線運休リスクの解消、運転手の負担軽減による安全性の向上を図ります。

吉田大東線の再編案

- 通学時間帯における掛合分校直通便（専用バス）の設定
- 日中の便は、JR木次駅～三刀屋 BC を拠点に路線を分割し、JR木次線を最大限いかしたダイヤとする
- ルート・ダイヤの全体的な見直しを行い、よりわかりやすくシンプルな運行にする
- 重複して運行する木次三刀屋線との統合

再編イメージ



●乗り継ぎ環境・待合環境の整備

利便増進事業を想定

- JR木次駅をはじめとする主要な乗り継ぎ拠点を中心に、既存施設も活かしながら待合環境や案内を改善し、だれもが利用しやすい環境をつくります。

乗り継ぎ環境の整備例

1. 冷暖房およびWi-fi環境の整備
2. 高校生の自主学習用のスペース整備
3. わかりやすい公共交通情報の案内
4. 施設の耐震補強
5. デジタルサイネージの設置による、バスやだんだんタクシーの運行情報の見える化 等

1-2. だんだんタクシーをもっと使いやすく進化させる

●だんだんタクシー（だんだんバス）のサービス内容改善 利便増進事業を想定

- バスの利用が少ない区間や時間帯は、だんだんタクシー（だんだんバス）へ移行し、自宅近くから目的地までドアツードアで出かけやすくします。
- 現行の町ごとの運行を基本としつつ、移動ニーズに応じて、ゾーン内では町の垣根を越えて運行エリアを拡大し、目的地に出かけやすくします。
- 右記のように、サービス内容の見直しを行い、利便性を向上します。

だんだんタクシー・だんだんバスの見直し例

1. ダイヤの見直し（午後便のオンデマンド化も含めた見直し検討）
2. 運行時間の延長や運行曜日の拡大
3. バスに乗り継ぎやすいダイヤの設定 等

2-1. 交通を「自分ごと」として考え、行動する文化を育む

●「交通えすこ会議」の設置

- 地域自主組織、交通事業者、地域活動団体等の関係者が集まり、地域公共交通やその活用について共に議論し、計画を育てる場を設置します。

●地域と連携した外出機会の創出

- 地域のイベントや買い物支援など、外出の「目的」と交通を結びつけ、個人利用だけでなくコミュニティとしての参加も促すことで、高齢者の外出機会を創出します。

3-1. 運転手の未来を支え、働きがいを高める

●担い手確保への直接支援

- 「雲南市運転免許取得支援事業補助金（二種免許の取得費用の補助制度）」の対象や補助額を拡充し、支援を強化します。
- 短時間勤務など、多様な働き方の導入促進や待遇改善をはたらきかけ、運転手など運行业務に携わる方々が働きやすい環境を整えます。
- 運転手確保に向けた採用活動・PR活動に取り組みます。